

ICTタブレットを活用した学習の取り組み

大野小学校

大野小学校では、今年度、1人に1台タブレット端末が整備されたことから、積極的にタブレットを活用した取り組みを行っています。

初めてのタブレット

1年生は、写真を撮ったり、学習ソフトを利用したりすることを通して、タブレットを使う際の約束やマナーを知ったり、端末に慣れたりすることを中心に行ってきました。



1年生 初めてのタブレット学習

学習ツールとしてのタブレット

2～6年生では、さまざまな学習の場面でタブレットを活用しています。

国語の学習では、4年生はリーフレット、5年生はポスターを作成しました。

写真などの画像が使えること、レイアウトが工夫できること、やり直しが容易であるため、意欲的に試行錯誤を繰り返す姿が見られました。



4年生国語「リーフレットを作ろう」

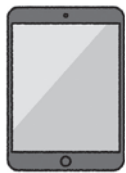


5年生国語「ポスターを作ろう」

理科の学習では、植物の観察の際にタブレットで写真を撮り、プレゼンテーションソフトで記録したり、調べ学習や単元の学習内容、実験結果を資料とともにまとめました。

ノートやプリント、新聞などでまとめるよりも、抵抗を感じずに学習に取り組みむことができるようです。

また、まとめを発表する場面でも、友達の発表に対して関心を持って聞く姿が見られました。



4年生道徳「絵はがきと切手」

道徳の学習では、自分の考えがAとBいずれに近いかが表すことのできるソフトを使い、自分の立場を明らかにし、理由を交流する場面で利用しました。

みんなの前で自分の考えを発表することが苦手な児童や、ノートに自分の考えを書き表すことに抵抗感がある児童も、積極的に自分の意見を書き込む様子が見られました。

児童の端末から他の人のコメントを読むことができるので、自ら友達の考えを読み、自分の考えと比較し、さらに自分の考えを深めることが多くなりました。

体育では、試技を録画、追いかけて再生することで、自分の技を振り返り、次の試技に生かそうとしていました。

音楽では、プログラミングソフトを使い、共通教材を入力することで、音楽をプログラミングする方法を理解し、四分の四拍子でオリジナルの音楽作りを試みた学年もあり、実際に音楽を再生して、

楽しそうに活動していました。

ICTの活用

このように、1人に1台端末を整備したことによって、子どもたち自身が、自分のペースで考えをより深めたり、苦手と感じていた学習に対して違うアプローチをすることで意欲が高まったりする「個別最適な学び」を進めることができます。

また、授業中の「発言」を中心とした意見交流から、タブレット画面を通した新しい形での意見交流により「協働的な学び」を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実践につなげることができそうです。

現在、コロナウイルスのような感染症への対策や地震などの災害で、学校が臨時休業となっても、学びを止めないために、オンライン学習の準備を進めています。まったく新しい形での授業となり、職員研修を積んでいるところです。タブレットを家庭に持ち帰っての取り組みとなり、保護者の方のご協力をいただくこととなります。

予測困難なこれからの社会を生き抜く力を、タブレットの活用によって子どもたちに身に付けさせられるよう、努力と工夫を重ねていきたいと思っています。

(大野小学校 教諭 宮川 典子)